

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	麻生情報ビジネス専門学校
設置者名	学校法人 麻生塾

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時間数	配置困難
工業専門課程	ネットワーク・セキュリティ科	夜・通信	256	240	
	ゲームクリエイタ科	夜・通信	270	240	
	情報システム専攻科 2019年度入学生 (システムエンジニア専攻) (ネットワークエンジニア専攻) (電子システムエンジニア専攻)	夜・通信	17	9	
	情報システム専攻科 2019年度入学生 (アドバンスコース)	夜・通信	16	9	
	情報システム専攻科 2018年度以前入学生	夜・通信	290	240	
	情報システム専攻科 2018年度以前入学生 (アドバンスコース)	夜・通信	240	240	
	情報システム科 2019年度入学生 (プログラミング専攻) (ネットワーク専攻) (電子システム専攻)	夜・通信	11	6	
	情報システム科 2019年度入学生 (アドバンスコース)	夜・通信	10	6	
	情報システム科 2018年度以前入学生	夜・通信	180	160	
	CGクリエイタ科	夜・通信	270	240	
	電子システム工学科 (旧 組込みシステム科)	夜・通信	256	240	
	情報工学科 2019年度入学生	夜・通信	20	12	
	情報工学科 2018年度以前入学生	夜・通信	382	320	
	ゲームクリエイタ専攻科	夜・通信	390	320	

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時間数	配置困難
課程 工業専門	漫画・アニメ科	夜・通信	270	240	
	Webクリエイター科	夜・通信	270	240	
商業実務専門課程	経理科 2019年度入学生	夜・通信	10	6	
	経理科 2018年度以前入学生	夜・通信	188	160	
	情報ビジネス科 2019年度入学生	夜・通信	12	6	
	情報ビジネス科 2018年度以前入学生	夜・通信	180	160	
	ビジネスエキスパート科 2019年度入学生	夜・通信	10	6	
	ビジネスエキスパート科 2018年度以前入学生	夜・通信	180	160	
	税理士専攻科	夜・通信	332	320	
	経営ビジネス科 2019年度入学生	夜・通信	10	6	
	経営ビジネス科 2018年度以前入学生	夜・通信	180	160	
	経理専攻科	夜・通信	7	3	
(備考) 2019年度入学生より単位制導入（2018年度以前入学生は時間制） ネットワーク・セキュリティ科は、募集停止のため、2・3年次のみ在籍 ゲームクリエイター科は、募集停止のため、3年次のみ在籍 CGクリエイター科は、募集停止のため、3年次のみ在籍 電子システム工学科は、募集停止のため、2・3年次のみ在籍 ゲームクリエイター専攻科は、募集停止のため、3・4年次のみ在籍 漫画・アニメ科は、募集停止のため、3年次のみ在籍 Webクリエイター科は、募集停止のため、3年次のみ在籍 税理士専攻科は、募集停止のため、4年次のみ在籍					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/abcc/2019/kyoin.pdf>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	麻生情報ビジネス専門学校
設置者名	学校法人 麻生塾

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/aso/2019/directors.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社麻生 飯塚病院 院長	平成31年 3月1日～ 令和5年2 月28日	麻生塾の運営状況に関する情報について、現状を十分に把握した上で参画し、運営に多様な意見を取り入れる観点から、より俯瞰的な立場で意見を述べる。
非常勤	株式会社麻生 専務取締役	平成27年 10月10 日～令和元 年10月9 日	麻生塾の運営状況に関する情報について、現状を十分に把握した上で参画し、運営に多様な意見を取り入れる観点から、より俯瞰的な立場で意見を述べる、
非常勤	麻生商事株式会社 代表取締役会長	平成27年 10月10 日～令和元 年10月9 日	麻生塾の運営状況に関する情報について、現状を十分に把握した上で参画し、運営に多様な意見を取り入れる観点から、より俯瞰的な立場で意見を述べる、
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名（学部等名）	麻生情報ビジネス専門学校
設置者名	学校法人 麻生塾

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画書（シラバス）は以下のとおり作成及び公表している。</p> <p>○教育課程（カリキュラム）の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年 6 月に開催される株式会社システムソフト、リコージャパン株式会社、公益財団法人画像情報教育振興協会等からなる教育課程編成委員会において、教育課程（カリキュラム）について意見を聴取する。その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。</p> <p>○授業計画書（シラバス）の策定 カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が 2 月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書（シラバス）を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。</p> <p>○授業計画書（シラバス）の公表 確定したカリキュラム及び授業計画書（シラバス）は、Web ページに公開するとともに、学生に授業開始時に説明を行っている。</p>	
授業計画書の公表方法	https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/abcc

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。

○授業科目に対する成績評価

定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。

科目毎の評価方法は、シラバスに記載した評価方法に基づき行う。また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。

特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする。

○履修認定について

単位制の学科については、授業科目を履修し成績評価判定で合格した者に対し、所定の単位を授与する。

単位制以外の学科については、各授業科目の授業回数の3分の2以上の出席を行った者に対し、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

学習成果を総合的に判断する指標として、成績評価について「GPA (Grade Point Average)」制度を導入し、各学科別に相対的な成績分布を把握し、適切に実施している。

○GPA対象科目

開講する全ての授業科目をGPAの対象授業科目としている。但し、次に掲げる授業科目に該当する場合は、GPAの対象外とする。

- ①授業評価においてランクを付けずに合格 (R評価) 不合格 (D評価) のみで判定する授業科目
- ②学生が他校等で履修した授業科目 (本校における履修とみなし単位を与えるものに限る。)
- ③校長等がGPA算出除外科目として定める授業科目

○GPA (Grade Point Average)

学生が履修した授業科目の成績のGPは、下表のとおりとする。

評 語	GP
S	4
A	3
B	2
C	1
D	0

GPAは、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。

$$GPA = \frac{\text{【履修科目の単位数} \times \text{GP】の合計}}{\text{履修した講義の総単位数}}$$

○GPA算出方法の公表

GPA規程をWebページに公開するとともに、学生に、授業開始時に説明を行っている。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/abcc/2019/gr_06.pdf

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校では、教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき、適切に実施している。</p> <p>○ディプロマポリシー 本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。 2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。 3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。 4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。 <p>○卒業認定 卒業は、以下のすべてに該当する者で、校長が認めた者としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学則に定める当該学科所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者 2 卒業基準検定を取得している者 3 学年の出席率が90%以上である者 <p>また、2019年度入学生より導入している単位制の学科については、卒業要件を以下のように定めている。</p> <p>学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者</p> <table> <tr> <td>1年課程</td> <td>30単位</td> </tr> <tr> <td>2年課程</td> <td>62単位</td> </tr> <tr> <td>3年課程</td> <td>90単位</td> </tr> <tr> <td>4年課程</td> <td>124単位</td> </tr> </table> <p>卒業の認定については、担任が卒業要件の確認を行った上で、卒業要件を満たさない者については卒業判定会議において協議し、校長が判定を行う。</p> <p>○ディプロマポリシー及び卒業認定基準の公表 ディプロマポリシー及び「進級・卒業に関する規程」（単位制以外の学科）、「履修規程」（単位制学科）をWebページに公開するとともに、学生に授業開始時に説明を行っている。</p>		1年課程	30単位	2年課程	62単位	3年課程	90単位	4年課程	124単位
1年課程	30単位								
2年課程	62単位								
3年課程	90単位								
4年課程	124単位								
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/abcc/2019/gr_04.pdf								

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	麻生情報ビジネス専門学校
設置者名	学校法人 麻生塾

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/aso/2019/finance_02.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/aso/2019/finance_03.pdf
財産目録	https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/aso/2019/finance_04.pdf
事業報告書	https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/aso/2019/finance_01.pdf
監事による監査報告（書）	https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/aso/2019/finance_05.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	情報システム専攻科 単位制 (システムエンジニア専攻) ※2019年度入学生		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	90 単位時間/単位	40 単位時間/ 単位	17 単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時 間/単位	単位時間 /単位
			57 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240 人の内数		96 人	5 人	8 人の内数	3 人の内数	11 人の内数	

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	情報システム専攻科 単位制 (ネットワークエンジニア専攻) ※2019年度入学生		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	90 単位時間/単位	40 単位時間/ 単位	17 単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時 間/単位	単位時間 /単位
			57 単位時間/単位				

生徒総定員数	生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
240 人の内数	25 人	0 人	8 人の内数	3 人の内数	11 人の内数

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報システム専攻科 単位制 (電子システムエンジニア専攻) ※2019 年度入学生	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	90 単位時間/単位	40 単位時間/ 単位	17 単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位
			57 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240 人の内数		7 人	1 人	8 人の内数	3 人の内数	11 人の内数	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報システム専攻科 ※2018 年度以前入学生	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2,748 単位時間/単位	712 単位時間/ 単位	1,542 単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位
			2,254 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240 人の内数		89 人	1 人	8 人の内数	3 人の内数	11 人の内数	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>授業計画書 (シラバス) は以下のとおり作成及び公表している。</p> <p>○教育課程 (カリキュラム) の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年 6 月に開催される SCSK九州株式会社、社団法人福岡県情報サービス産業協会等からなる教育課程編成委員会において、教育課程 (カリキュラム) について意見を聴取する。その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。</p> <p>○授業計画 (シラバス) の策定 カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が 2 月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書 (シラバス) を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが</p>

出来るようになっている。

○授業方法及び内容

授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく

成績評価の基準・方法

(概要)

成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。

○授業科目に対する成績評価

定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。

また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。

特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする

○履修認定について

各授業科目の授業回数の3分の2以上の出席を行った者に対し、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

また、2019年度入学生より導入した単位制の学科については、シラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

卒業・進級の認定基準

(概要)

教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。

○ディプロマポリシー

本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。

1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。
2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。
3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。
4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。

<p>○進級認定</p> <p>進級は、以下の各号すべてに該当する者で、校長が認めた者とする。(2019年度入学生より導入している単位制の学科については除く)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学則に定める当該学年所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者 2 学年の出席率が90%以上である者 <p>○卒業認定</p> <p>卒業は、以下のすべてに該当する者で、校長が認めた者としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学則に定める当該学科所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者 2 卒業基準検定を取得している者 3 学年の出席率が90%以上である者 <p>また、2019年度入学生より導入している単位制の学科については、卒業要件を以下のように定めている。</p> <p>学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者</p> <ol style="list-style-type: none"> 1年課程 30単位 2年課程 62単位 3年課程 90単位 4年課程 124単位 <p>進級及び卒業の認定については、担任が進級・卒業要件の確認を行い、進級・卒業判定会議において校長が判定する。進級・卒業要件の全てを満たさない者については進級・卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>○クラス担任制</p> <p>各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。</p> <p>○定期的な個別面談の実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む)	その他
39人 (100%)	0人 (0%)	38人 (97.4%)	1人 (2.6%)
(主な就職、業界等) 情報サービス業			
(就職指導内容) 面接指導、履歴書指導、求人票説明・指導、企業研究、進路ガイダンス			
(主な学修成果(資格・検定等)) 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
140 人	6 人	4.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更、健康上の問題		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任面談、三者面談、保護者への状況報告、進路相談		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報システム専攻科 単位制 (アドバンスコース) ※2019 年度入学生	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	90 単位時間/単位	29 単位時間/ 単位	34 単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時 間/単位	単位時間 /単位
			63 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
240 人の内数	4 人	0 人	8 人の内数	3 人の内数	11 人の内数		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報システム専攻科 (アドバンスコース) ※2018 年度以前入学生	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2,722 単位時間/単位	574 単位時間/ 単位	1,530 単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時 間/単位	単位時間 /単位
			2,104 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
240 人の内数	4 人	0 人	8 人の内数	3 人の内数	11 人の内数		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画 (シラバス) は以下のとおり作成及び公表している。
○教育課程 (カリキュラム) の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される S C S K九州株式会社、社団法人福岡県情報サービス産業協会等からなる教育 課程編成委員会において、教育課程 (カリキュラム) について意見を聴取する。

その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。

○授業計画書（シラバス）の策定

カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書（シラバス）を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。

○授業方法及び内容

授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく

成績評価の基準・方法

（概要）

成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。

○授業科目に対する成績評価

定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。

また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。

特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする

○履修認定について

各授業科目の授業回数の3分の2以上の出席を行った者に対し、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

また、2019年度入学生より導入した単位制の学科については、シラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。

○ディプロマポリシー

本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。

1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。

2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。
3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。
4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。

○進級認定

進級は、以下の各号すべてに該当する者で、校長が認めた者とする。(2019年度入学生より導入している単位制の学科については除く)

- 1 学則に定める当該学年所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者
- 2 学年の出席率が90%以上である者

○卒業認定

卒業は、以下のすべてに該当する者で、校長が認めた者としている。

- 1 学則に定める当該学科所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者
- 2 卒業基準検定を取得している者
- 3 学年の出席率が90%以上である者

また、2019年度入学生より導入している単位制の学科については、卒業要件を以下のように定めている。

学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者

- 1年課程 30単位
- 2年課程 62単位
- 3年課程 90単位
- 4年課程 124単位

進級及び卒業の認定については、担任が進級・卒業要件の確認を行い、進級・卒業判定会議において校長が判定する。進級・卒業要件の全てを満たさない者については進級・卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。

学修支援等

(概要)

○クラス担任制

各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。

○定期的な個別面談の実施。

卒業者数、進学者数、就職者数

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む)	その他
0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			

(就職指導内容)
(主な学修成果 (資格・検定等))
(備考) (任意記載事項) 該当者なし

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
4人	0人	0%
(中途退学の主な理由) なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任面談、三者面談、保護者への状況報告、進路相談		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士				
工業	工業専門課程	情報システム科 単位制 (プログラミング専攻) ※2019年度入学生	○	—				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼	62 単位時間/単位	40 単位時間/ 単位	17 単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	57 単位時間/単位
生徒総定員数	生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
150人の内数	39人	9人	6人の内数	3人の内数	9人の内数			

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士				
工業	工業専門課程	情報システム科 単位制 (ネットワーク専攻) ※2019年度入学生	○	—				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼	62 単位時間/単位	40 単位時間/ 単位	17 単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	57 単位時間/単位
生徒総定員数	生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
150人の内数	9人	0人	6人の内数	3人の内数	9人の内数			

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	情報システム科 単位制 (電子システム専攻) ※2019年度入学生		○	—	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位時間/単位	40 単位時間/ 単位	17 単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時 間/単位	単位時間 /単位
			57 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
150 人の内数		2 人	1 人	6 人の内数	3 人の内数	9 人の内数	

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	情報システム科 ※2018年度入学生		○	—	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,856 単位時間/単位	358 単位時間/ 単位	848 単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時 間/単位	単位時間 /単位
			1,206 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
150 人の内数		38 人	2 人	6 人の内数	3 人の内数	9 人の内数	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>授業計画 (シラバス) は以下のとおり作成及び公表している。</p> <p>○教育課程 (カリキュラム) の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される株式会社ゲット、Training Center Japan 等からなる教育課程編成委員会において、教育課程 (カリキュラム) について意見を聴取する。 その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。</p> <p>○授業計画書 (シラバス) の策定 カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書 (シラバス) を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。</p>

<p>○授業方法及び内容 授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p>
<p>(概要) 成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。</p> <p>○授業科目に対する成績評価 定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。 また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。 特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする</p> <p>○履修認定について 各授業科目の授業回数の3分の2以上の出席を行った者に対し、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。 また、2019年度入学生より導入した単位制の学科については、シラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。</p>

<p>卒業・進級の認定基準</p>
<p>(概要) 教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき、適切に実施している。</p> <p>○ディプロマポリシー 本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。 2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。 3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。 4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。 <p>○進級認定 進級は、以下の各号すべてに該当する者で、校長が認めた者とする。（2019年度入学生より導入している単位制の学科については除く）</p>

<p>1 学則に定める当該学年所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者 2 学年の出席率が90%以上である者</p> <p>○卒業認定 卒業は、以下のすべてに該当する者で、校長が認めた者としている。 1 学則に定める当該学科所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者 2 卒業基準検定を取得している者 3 学年の出席率が90%以上である者 また、2019年度入学生より導入している単位制の学科については、卒業要件を以下のように定めている。</p> <p>学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者</p> <p>1年課程 30単位 2年課程 62単位 3年課程 90単位 4年課程 124単位</p> <p>進級及び卒業の認定については、担任が進級・卒業要件の確認を行い、進級・卒業判定会議において校長が判定する。進級・卒業要件の全てを満たさない者については進級・卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。</p> <p>○定期的な個別面談の実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む)	その他
54人 (100%)	4人 (7.4%)	49人 (90.7%)	1人 (1.9%)
(主な就職、業界等) 情報サービス業			
(就職指導内容) 面接指導、履歴書指導、求人票説明・指導、企業研究、進路ガイダンス			
(主な学修成果(資格・検定等)) 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
89人	2人	2.2%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任面談、三者面談、保護者への状況報告、進路相談		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報システム科 単位制 (アドバンスコース) ※2019年度入学生	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位時間/単位	38 単位時間/ 単位	25 単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時 間/単位	単位時間 /単位
			63 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
150人の内数	4人	0人	6人の内数	3人の内数	9人の内数		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要) 授業計画書 (シラバス) は以下のとおり作成及び公表している。</p> <p>○教育課程 (カリキュラム) の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される株式会社ゲット、Training Center Japan 等からなる教育課程編成委員会において、教育課程 (カリキュラム) について意見を聴取する。 その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。</p> <p>○授業計画書 (シラバス) の策定 カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書 (シラバス) を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。</p> <p>○授業方法及び内容 授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく。</p>

<p>成績評価の基準・方法</p>
<p>(概要) 成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。</p> <p>○授業科目に対する成績評価 定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。 また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。 特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする</p> <p>○履修認定について 各授業科目のシラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p>
<p>(概要) 教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき、適切に実施している。</p> <p>○ディプロマポリシー 本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。 2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。 3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。 4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。 <p>○卒業認定 卒業は、学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者とする。</p> <p style="margin-left: 2em;">1年課程 30単位 2年課程 62単位 3年課程 90単位 4年課程 124単位</p> <p>卒業の認定については、担任が進級・卒業要件の確認を行い、卒業判定会議において校長が判定する。卒業要件の全てを満たさない者については卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。</p>

学修支援等
(概要) ○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。 ○定期的な個別面談の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) なし			
(就職指導内容)			
(主な学修成果(資格・検定等))			
(備考)(任意記載事項) 該当者なし			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由) なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) なし		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報工学科 単位制 (高度ITシステム専攻) ※2019年度入学生		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	124 単位時間/単位	40 単位時間 /単位	17 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			57 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
200人の内数	24人	0人	4人の内数	4人の内数	8人の内数		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報工学科 単位制 (高度ネットワーク・セキュリティ専攻) ※2019年度入学生		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	124 単位時間/単位	40 単位時間 /単位	17 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			57 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
200 人の内数	14 人	0 人	4 人の内数	4 人の内数	8 人の内数		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報工学科 単位制 (電子システム工学専攻) ※2019年度入学生		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	124 単位時間/単位	40 単位時間 /単位	17 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			57 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
200 人の内数	4 人	1 人	4 人の内数	4 人の内数	8 人の内数		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報工学科 ※2018年度以前入学生		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3,648 単位時間/単位	1,324 単位時間/ 単位	2,018 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			3,342 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
200 人の内数	83 人	1 人	4 人の内数	4 人の内数	8 人の内数		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書 (シラバス) は以下のとおり作成及び公表している。
○教育課程 (カリキュラム) の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される株式会社システムソフト、NPO法人 QUEST等からなる教育課程編成委員会に

において、教育課程（カリキュラム）について意見を聴取する。
その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。

○授業計画書（シラバス）の策定

カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書（シラバス）を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。

○授業方法及び内容

授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく。

成績評価の基準・方法

（概要）

成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。

○授業科目に対する成績評価

定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。

また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。

特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする

○履修認定について

各授業科目の授業回数の3分の2以上の出席を行った者に対し、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

また、2019年度入学生より導入した単位制の学科については、シラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき、適切に実施している。

○ディプロマポリシー

本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。

1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。

2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。
3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。
4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。

○進級認定

進級は、以下の各号すべてに該当する者で、校長が認めた者とする。(2019年度入学生より導入している単位制の学科については除く)

- 1 学則に定める当該学年所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者
- 2 学年の出席率が90%以上である者

○卒業認定

卒業は、以下のすべてに該当する者で、校長が認めた者としている。

- 1 学則に定める当該学科所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者
- 2 卒業基準検定を取得している者
- 3 学年の出席率が90%以上である者

また、2019年度入学生より導入している単位制の学科については、卒業要件を以下のように定めている。

学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者

- | | |
|------|-------|
| 1年課程 | 30単位 |
| 2年課程 | 62単位 |
| 3年課程 | 90単位 |
| 4年課程 | 124単位 |

進級及び卒業の認定については、担任が進級・卒業要件の確認を行い、進級・卒業判定会議において校長が判定する。進級・卒業要件の全てを満たさない者については進級・卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。

学修支援等

(概要)

○クラス担任制

各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。

○定期的な個別面談の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む)	その他
26人 (100%)	0人 (0%)	26人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 情報サービス業			
(就職指導内容) 面接指導、履歴書作成指導、業界セミナー開催、企業研究			
(主な学修成果(資格・検定等)) 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
114人	2人	1.8%
(中途退学の主な理由) 他分野への進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学説明会での職種およびカリキュラムに関する説明、定期的な面談		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	電子システム工学科 (旧組込みシステム科)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,776 単位時間/単位	798 単位時間/ 単位	1,326 単位時間/ 単位	— 単位時間/ 単位	— 単位時間/ 単位	— 単位時間/ 単位
			2,124 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	23人	0人	2人	3人	5人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書 (シラバス) は以下のとおり作成及び公表している。
○教育課程 (カリキュラム) の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される株式会社 YE DIGITAL、NPO 法人 QUEST 等からなる教育課程編成委員会において、教育課程 (カリキュラム) について意見を聴取する。 その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理

念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。

○授業計画書（シラバス）の策定

カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書（シラバス）を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。

○授業方法及び内容

授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく。

成績評価の基準・方法

（概要）

成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。

○授業科目に対する成績評価

定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。

また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。

特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする

○履修認定について

各授業科目の授業回数の3分の2以上の出席を行った者に対し、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき、適切に実施している。

○ディプロマポリシー

本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。

1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。
2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。
3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。
4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。

<p>○進級認定 進級は、以下の各号すべてに該当する者で、校長が認めた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学則に定める当該学年所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者 2 学年の出席率が90%以上である者 <p>○卒業認定 卒業は、以下のすべてに該当する者で、校長が認めた者としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学則に定める当該学科所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者 2 卒業基準検定を取得している者 3 学年の出席率が90%以上である者 <p>進級及び卒業の認定については、担任が進級・卒業要件の確認を行い、進級・卒業判定会議において校長が判定する。進級・卒業要件の全てを満たさない者については進級・卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。</p> <p>○定期的な個別面談の実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む)	その他
6人 (100%)	0人 (0%)	6人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 情報サービス業			
(就職指導内容) 面接指導、履歴書作成指導、業界セミナー開催			
(主な学修成果(資格・検定等)) 基本情報技術者試験、組込みソフトウェア技術者試験グレードB			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
30人	0人	0%
(中途退学の主な理由) なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学説明会での職種およびカリキュラムに関する説明、定期的な面談		

分野	課程名	学科名			専門士	高度専門士	
工業	工業専門課程	ネットワーク・セキュリティ科			○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,730 単位時間/単位	1,552 単位時間/ 単位	1,390 単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位
			2,942 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90人		64人	2人	2人	3人	5人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要） 授業計画書（シラバス）は以下のとおり作成及び公表している。</p> <p>○教育課程（カリキュラム）の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催されるユニアデックス株式会社、Training Center Japan 等からなる教育課程編成委員会において、教育課程（カリキュラム）について意見を聴取する。 その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。</p> <p>○授業計画書（シラバス）の策定 カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書（シラバス）を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。</p> <p>○授業方法及び内容 授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要） 成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。</p> <p>○授業科目に対する成績評価 定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。 また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、</p>

<p>再試験を含む) および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。 特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする</p> <p>○履修認定について 各授業科目の授業回数の3分の2以上の出席を行った者に対し、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p>
<p>(概要) 教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき、適切に実施している。</p> <p>○ディプロマポリシー 本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。 2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。 3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。 4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。 <p>○進級認定 進級は、以下の各号すべてに該当する者で、校長が認めた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学則に定める当該学年所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者 2 学年の出席率が90%以上である者 <p>○卒業認定 卒業は、以下のすべてに該当する者で、校長が認めた者としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学則に定める当該学科所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者 2 卒業基準検定を取得している者 3 学年の出席率が90%以上である者 <p>進級及び卒業の認定については、担任が進級・卒業要件の確認を行い、進級・卒業判定会議において校長が判定する。進級・卒業要件の全てを満たさない者については進級・卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。</p>
<p>学修支援等</p>
<p>(概要)</p> <p>○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。</p> <p>○定期的な個別面談の実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む)	その他
20人 (100%)	0人 (0%)	19人 (95.0%)	1人 (0.5%)
(主な就職、業界等) 情報サービス業			
(就職指導内容) 面接指導、履歴書作成指導、業界セミナー開催			
(主な学修成果(資格・検定等)) CCNA R&S、IT パスポート			
(備考) (任意記載事項) (旧コンピュータネットワーク科)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
87人	3人	3.4%
(中途退学の主な理由) 他分野への進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学説明会での職種およびカリキュラムに関する説明、定期的な面談		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	ゲームクリエイタ科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,799 単位時間/単位	30 単位時間/ 単位	625 単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位
			855 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		27人	1人	1人	3人	4人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書(シラバス)は以下のとおり作成及び公表している。
○教育課程(カリキュラム)の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される株式会社マトリックス、福岡市経済観光文化局等からなる教育課程編成委員会において、教育課程(カリキュラム)について意見を聴取する。

その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。

○授業計画書（シラバス）の策定

カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書（シラバス）を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。

○授業方法及び内容

授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく

成績評価の基準・方法

（概要）

成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。

○授業科目に対する成績評価

定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。

また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。

特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする

○履修認定について

各授業科目の授業回数の3分の2以上の出席を行った者に対し、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき、適切に実施している。

○ディプロマポリシー

本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。

1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。
2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。
3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。

4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。

○進級認定

進級は、以下の各号すべてに該当する者で、校長が認めた者とする。

- 1 学則に定める当該学年所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者
- 2 学年の出席率が90%以上である者

○卒業認定

卒業は、以下のすべてに該当する者で、校長が認めた者としている。

- 1 学則に定める当該学科所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者
- 2 卒業基準検定を取得している者
- 3 学年の出席率が90%以上である者

進級及び卒業の認定については、担任が進級・卒業要件の確認を行い、進級・卒業判定会議において校長が判定する。進級・卒業要件の全てを満たさない者については進級・卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。

学修支援等

(概要)

○クラス担任制

各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。

○定期的な個別面談の実施。

卒業者数、進学者数、就職者数

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む)	その他
25人 (100%)	0人 (0%)	23人 (92.0%)	2人 (8.0%)
(主な就職、業界等) ゲーム会社、IT企業			
(就職指導内容) 面接指導、履歴書作成指導、業界セミナー開催、企業研究			
(主な学修成果(資格・検定等)) 基本情報技術者			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
53人	3人	5.7%
(中途退学の主な理由) 他分野への進路変更、経済的理由による学業継続困難		

(中退防止・中退者支援のための取組)
担任面談、三者面談、進路相談、保護者への状況報告、科目別補講

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	CGクリエイタ科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,679 単位時間/単位	30 単位時間 /単位	840 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			870 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
105人		16人	1人	1人	3人	4人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要) 授業計画書 (シラバス) は以下のとおり作成及び公表している。</p> <p>○教育課程 (カリキュラム) の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される株式会社 FOREST Hunting One、公益財団法人画像情報教育振興協会等からなる教育課程編成委員会において、教育課程 (カリキュラム) について意見を聴取する。 その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。</p> <p>○授業計画書 (シラバス) の策定 カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書 (シラバス) を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。</p> <p>○授業方法及び内容 授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要) 成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。</p> <p>○授業科目に対する成績評価 定期試験及び学修状況 (履修状況) 等に基づいて、特別の場合を除き、学期末 (前期・後期) に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。</p>

また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。
特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする

- 履修認定について
各授業科目の授業回数の3分の2以上の出席を行った者に対し、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

卒業・進級の認定基準

(概要)
教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき、適切に実施している。

- ディプロマポリシー
本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。
 1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。
 2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。
 3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。
 4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。

- 進級認定
進級は、以下の各号すべてに該当する者で、校長が認めた者とする。
 - 1 学則に定める当該学年所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者
 - 2 学年の出席率が90%以上である者

- 卒業認定
卒業は、以下のすべてに該当する者で、校長が認めた者としている。
 - 1 学則に定める当該学科所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者
 - 2 卒業基準検定を取得している者
 - 3 学年の出席率が90%以上である者

進級及び卒業の認定については、担任が進級・卒業要件の確認を行い、進級・卒業判定会議において校長が判定する。進級・卒業要件の全てを満たさない者については進級・卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。

学修支援等

- (概要)
- クラス担任制
各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。
- 定期的な個別面談の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む)	その他
19人 (100%)	0人 (0%)	18人 (94.7%)	1人 (5.3%)
(主な就職、業界等) CGプロダクション、デザイン会社			
(就職指導内容) 面接指導、履歴書作成指導、業界セミナー開催、企業研究			
(主な学修成果(資格・検定等)) CGクリエイター検定			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
36人	1人	2.8%
(中途退学の主な理由) 他分野への進路変更、経済的理由による学業継続困難		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任面談、三者面談、進路相談、保護者への状況報告、科目別補講		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	ゲームクリエイタ専攻科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3,525 単位時間/単位	210 単位時間 /単位	1,485 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1,695 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		66人	0人	2人	5人	7人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書(シラバス)は以下のとおり作成及び公表している。
○教育課程(カリキュラム)の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される株式会社ヴァイス、福岡市経済観光文化局等からなる教育課程編成委員会において、教育課程(カリキュラム)について意見を聴取する。

その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。

○授業計画書（シラバス）の策定

カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書（シラバス）を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。

○授業方法及び内容

授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく

成績評価の基準・方法

(概要)

成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。

○授業科目に対する成績評価

定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。

また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。

特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする

○履修認定について

各授業科目の授業回数の3分の2以上の出席を行った者に対し、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

卒業・進級の認定基準

(概要)

教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき、適切に実施している。

○ディプロマポリシー

本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。

1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。
2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。
3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考え

を論理的に表現する能力。

4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。

○進級認定

進級は、以下の各号すべてに該当する者で、校長が認めた者とする。

- 1 学則に定める当該学年所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者
- 2 学年の出席率が90%以上である者

○卒業認定

卒業は、以下のすべてに該当する者で、校長が認めた者としている。

- 1 学則に定める当該学科所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者
- 2 卒業基準検定を取得している者
- 3 学年の出席率が90%以上である者

進級及び卒業の認定については、担任が進級・卒業要件の確認を行い、進級・卒業判定会議において校長が判定する。進級・卒業要件の全てを満たさない者については進級・卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。

学修支援等

(概要)

○クラス担任制

各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。

○定期的な個別面談の実施。

卒業者数、進学者数、就職者数

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む)	その他
38人 (100%)	0人 (0%)	37人 (97.4%)	1人 (2.6%)

(主な就職、業界等)
ゲーム業界、IT業界

(就職指導内容)
面接指導、履歴書作成指導、業界セミナー開催

(主な学修成果(資格・検定等))
基本情報技術者試験

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
111 人	3 人	2.7%
(中途退学の主な理由) 学業継続への意欲低下、経済的理由による学業継続困難		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任面談、三者面談、進路相談、保護者への状況報告、科目別補講		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	漫画・アニメ科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2,694 単位時間/単位	15 単位時間/ 単位	840 単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時 間/単位	単位時間 /単位
			855 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
90 人	12 人	0 人	1 人	3 人	4 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>授業計画書（シラバス）は以下のとおり作成及び公表している。</p> <p>○教育課程（カリキュラム）の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される公益財団法人 画像情報教育振興協会、株式会社 studio A-CAT 等からなる教育課程編成委員会において、教育課程（カリキュラム）について意見を聴取する。 その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。</p> <p>○授業計画書（シラバス）の策定 カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書（シラバス）を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。</p> <p>○授業方法及び内容 授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく。</p>

<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要) 成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。</p> <p>○授業科目に対する成績評価 定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。 また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。 特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする</p> <p>○履修認定について 各授業科目の授業回数の3分の2以上の出席を行った者に対し、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要) 教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。</p> <p>○ディプロマポリシー 本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。 2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。 3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。 4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。 <p>○進級認定 進級は、以下の各号すべてに該当する者で、校長が認めた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学則に定める当該学年所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者 2 学年の出席率が90%以上である者 <p>○卒業認定 卒業は、以下のすべてに該当する者で、校長が認めた者としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学則に定める当該学科所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者 2 卒業基準検定を取得している者 3 学年の出席率が90%以上である者 <p>進級及び卒業の認定については、担任が進級・卒業要件の確認を行い、進級・卒業判</p>

定会議において校長が判定する。進級・卒業要件の全てを満たさない者については進級・卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。
学修支援等
(概要) ○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。 ○定期的な個別面談の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む)	その他
7人 (100%)	0人 (0%)	3人 (42.9%)	4人 (57.1%)
(主な就職、業界等) アニメ制作会社、漫画家			
(就職指導内容) 面接指導、履歴書作成指導、業界セミナー開催、企業研究			
(主な学修成果(資格・検定等)) 色彩検定 2級、色彩検定 3級			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
20人	1人	5.0%
(中途退学の主な理由) 学業継続への意欲低下、経済的理由による学業継続困難		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任面談、三者面談、進路相談、保護者への状況報告、科目別補講		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	Webクリエイタ科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,679 単位時間/単位	60 単位時間/ 単位	810 単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位
			870 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
105人	7人	0人	1人	2人	3人		

<p>カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）</p>
<p>（概要） 授業計画書（シラバス）は以下のとおり作成及び公表している。</p> <p>○教育課程（カリキュラム）の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される株式会社ディーゼロ、公益財団法人 画像情報教育振興協会等からなる教育課程編成委員会において、教育課程（カリキュラム）について意見を聴取する。 その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。</p> <p>○授業計画書（シラバス）の策定 カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書（シラバス）を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。</p> <p>○授業方法及び内容 授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく</p>
<p>成績評価の基準・方法</p>
<p>（概要） 成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。</p> <p>○授業科目に対する成績評価 定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。 また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。 特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする</p> <p>○履修認定について 各授業科目の授業回数の3分の2以上の出席を行った者に対し、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p>
<p>（概要） 教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。</p>

○ディプロマポリシー

本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。

1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。
2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。
3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。
4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。

○進級認定

進級は、以下の各号すべてに該当する者で、校長が認めた者とする。

- 1 学則に定める当該学年所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者
- 2 学年の出席率が90%以上である者

○卒業認定

卒業は、以下のすべてに該当する者で、校長が認めた者としている。

- 1 学則に定める当該学科所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者
- 2 卒業基準検定を取得している者
- 3 学年の出席率が90%以上である者

進級及び卒業の認定については、担任が進級・卒業要件の確認を行い、進級・卒業判定会議において校長が判定する。進級・卒業要件の全てを満たさない者については進級・卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。

学修支援等

（概要）

○クラス担任制

各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。

○定期的な個別面談の実施。

卒業者数、進学者数、就職者数			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む)	その他
11人 (100%)	0人 (0%)	11人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) Web制作会社、デザイン会社			
(就職指導内容) 面接指導、履歴書作成指導、業界セミナー開催、企業研究			
(主な学修成果(資格・検定等)) Illustrator 能力認定検定、Photoshop 能力認定試験、色彩能力検定			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19人	0人	0%
(中途退学の主な理由) なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任面談、三者面談、進路相談、保護者への状況報告、科目別補講		

分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
商業実務	商業実務専門課程		経理科 単位制 ※2019年度入学生		○		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位時間/単位	53 単位時間/ 単位	4 単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位
			57 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	29人	0人	3人の内数	3人の内数	6人の内数		

分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
商業実務	商業実務専門課程		経理科 ※2018年度入学生		○		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,734 単位時間/単位	1,432 単位時間/ 単位	218 単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位
			1,650 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	21人	0人	3人の内数	3人の内数	6人の内数		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>授業計画書 (シラバス) は以下のとおり作成及び公表している。</p> <p>○教育課程 (カリキュラム) の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される株式会社アルファクス・フード・システム、一般社団法人日本経営協会等からなる教育課程編成委員会において、教育課程 (カリキュラム) について意見を聴取する。その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。</p> <p>○授業計画書 (シラバス) の策定 カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書 (シラバス) を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。</p>

<p>○授業方法及び内容 授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく</p>
<p>成績評価の基準・方法 (概要) 成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。</p> <p>○授業科目に対する成績評価 定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。 また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。 特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする</p> <p>○履修認定について 各授業科目の授業回数の3分の2以上の出席を行った者に対し、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。 また、2019年度入学生より導入した単位制の学科については、シラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。</p>
<p>卒業・進級の認定基準 (概要) 教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。</p> <p>○ディプロマポリシー 本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。 2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。 3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。 4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。 <p>○進級認定 進級は、以下の各号すべてに該当する者で、校長が認めた者とする。（2019年度入学生より導入している単位制の学科については除く）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学則に定める当該学年所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者 2 学年の出席率が90%以上である者

<p>○卒業認定</p> <p>卒業は、以下のすべてに該当する者で、校長が認めた者としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学則に定める当該学科所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者 2 卒業基準検定を取得している者 3 学年の出席率が90%以上である者 <p>また、2019年度入学生より導入している単位制の学科については、卒業要件を以下のように定めている。</p> <p>学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者</p> <ol style="list-style-type: none"> 1年課程 30単位 2年課程 62単位 3年課程 90単位 4年課程 124単位 <p>進級及び卒業の認定については、担任が進級・卒業要件の確認を行い、進級・卒業判定会議において校長が判定する。進級・卒業要件の全てを満たさない者については進級・卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。</p>

学修支援等
<p>(概要)</p> <p>○クラス担任制</p> <p>各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。</p> <p>○定期的な個別面談の実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む)	その他
19人 (100%)	1人 (5.3%)	17人 (89.5%)	1人 (5.2%)
(主な就職、業界等) 営業職・販売職・営業事務等			
(就職指導内容) 面接指導、履歴書作成指導、業界セミナー開催			
(主な学修成果(資格・検定等)) 日本商工会議所簿記2級、全国経理教育協会簿記1級会計、 全国経理教育協会簿記1級工業簿記、MOS Word			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
44人	2人	4.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任面談、三者面談、進路相談、保護者への状況報告、科目別補講		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務専門課程	情報ビジネス科 単位制 ※2019年度入学生	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位時間/単位	39 単位時間 /単位	16 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			55 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		42人	2人	2人の内数	3人の内数	5人の内数	

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務専門課程	情報ビジネス科 ※2018年度入学生	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,740 単位時間/単位	498 単位時間 /単位	686 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1,184 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		38人	0人	2人の内数	3人の内数	5人の内数	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書 (シラバス) は以下のとおり作成及び公表している。
○教育課程 (カリキュラム) の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される株式会社アイスリーラボ、一般社団法人日本経営協会等からなる教育課程編成委員会において、教育課程 (カリキュラム) について意見を聴取する。 その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。

○授業計画書（シラバス）の策定

カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書（シラバス）を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。

○授業方法及び内容

授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく

成績評価の基準・方法

（概要）

成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。

○授業科目に対する成績評価

定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。

また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。

特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする

○履修認定について

各授業科目の授業回数の3分の2以上の出席を行った者に対し、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

また、2019年度入学生より導入した単位制の学科については、シラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。

○ディプロマポリシー

本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。

1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。
2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。
3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。

4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。

○進級認定

進級は、以下の各号すべてに該当する者で、校長が認めた者とする。(2019年度入学生より導入している単位制の学科については除く)

- 1 学則に定める当該学年所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者
- 2 学年の出席率が90%以上である者

○卒業認定

卒業は、以下のすべてに該当する者で、校長が認めた者としている。

- 1 学則に定める当該学科所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者
- 2 卒業基準検定を取得している者
- 3 学年の出席率が90%以上である者

また、2019年度入学生より導入している単位制の学科については、卒業要件を以下のように定めている。

学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者

- 1年課程 30単位
- 2年課程 62単位
- 3年課程 90単位
- 4年課程 124単位

進級及び卒業の認定については、担任が進級・卒業要件の確認を行い、進級・卒業判定会議において校長が判定する。進級・卒業要件の全てを満たさない者については進級・卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。

学修支援等

(概要)

○クラス担任制

各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。

○定期的な個別面談の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む)	その他
47人 (100%)	0人 (0%)	44人 (93.6%)	3人 (6.4%)
(主な就職、業界等) 営業職・販売職・営業事務等			
(就職指導内容) 面接指導、履歴書作成指導、業界セミナー開催、企業研究			
(主な学修成果(資格・検定等)) MOS Word、MOS Excel、MOS PowerPoint、MOS Access			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
85 人	1 人	1.2%
(中途退学の主な理由) 進路変更他分野への進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任面談、三者面談、進路相談、保護者への状況報告、科目別補講		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務専門課程	ビジネスエキスパート科 単位制 ※2019 年度入学生	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	62 単位時間/単位	44 単位時間 /単位	12 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			56 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	28 人	1 人	2 人の内数	3 人の内数	5 人の内数		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務専門課程	ビジネスエキスパート科 ※2018 年度入学生	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,752 単位時間/単位	286 単位時間 /単位	526 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			812 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	27 人	0 人	2 人の内数	3 人の内数	5 人の内数		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書 (シラバス) は以下のとおり作成及び公表している。
○教育課程 (カリキュラム) の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催されるリコー ージャパン株式会社、一般社団法人日本経営協会等からなる教育課程編成委員会に おいて、教育課程 (カリキュラム) について意見を聴取する。 その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理 念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。

<p>○授業計画書（シラバス）の策定 カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書（シラバス）を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。</p> <p>○授業方法及び内容 授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく</p>
--

<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要) 成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。</p> <p>○授業科目に対する成績評価 定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。 また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。 特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする</p> <p>○履修認定について 各授業科目の授業回数の3分の2以上の出席を行った者に対し、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。 また、2019年度入学生より導入した単位制の学科については、シラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。</p>
--

<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要) 教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。</p> <p>○ディプロマポリシー 本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。 2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。 3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。 4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。

<p>○進級認定</p> <p>進級は、以下の各号すべてに該当する者で、校長が認めた者とする。(2019年度入学生より導入している単位制の学科については除く)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学則に定める当該学年所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者 2 学年の出席率が90%以上である者 <p>○卒業認定</p> <p>卒業は、以下のすべてに該当する者で、校長が認めた者としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学則に定める当該学科所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者 2 卒業基準検定を取得している者 3 学年の出席率が90%以上である者 <p>また、2019年度入学生より導入している単位制の学科については、卒業要件を以下のように定めている。</p> <p>学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者</p> <ol style="list-style-type: none"> 1年課程 30単位 2年課程 62単位 3年課程 90単位 4年課程 124単位 <p>進級及び卒業の認定については、担任が進級・卒業要件の確認を行い、進級・卒業判定会議において校長が判定する。進級・卒業要件の全てを満たさない者については進級・卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>○クラス担任制</p> <p>各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。</p> <p>○定期的な個別面談の実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む)	その他
16人 (100%)	0人 (0%)	16人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 営業職・販売職・営業事務等			
(就職指導内容) 面接指導、履歴書作成指導、業界セミナー開催、企業研究			
(主な学修成果(資格・検定等)) 経済産業省主催 IT パスポート試験、MOS Word、MOS Excel			
備考) (任意記載事項) (旧情報エキスパート科)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
44人	0人	0%
(中途退学の主な理由) なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任面談、三者面談、進路相談、保護者への状況報告、科目別補講		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務専門課程	経営ビジネス科 単位制 ※2019年度入学生	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位時間/単位	33 単位時間 /単位	19 単位時間 /単位	9 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			61 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20人	25人	1人	2人の内数	3人の内数	4人の内数		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務専門課程	経営ビジネス科 ※2018年度入学生	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,828 単位時間/単位	462 単位時間 /単位	618 単位時間 /単位	360 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1,440 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20人	17人	1人	2人の内数	3人の内数	4人の内数		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書 (シラバス) は以下のとおり作成及び公表している。
○教育課程 (カリキュラム) の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される株式会社バーズ・プランニング、一般社団法人日本経営協会等からなる教育課程編成委員会において、教育課程 (カリキュラム) について意見を聴取する。 その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。

○授業計画書（シラバス）の策定

カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書（シラバス）を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。

○授業方法及び内容

授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく

成績評価の基準・方法

（概要）

成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。

○授業科目に対する成績評価

定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。

評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。

特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする。

○履修認定について

各授業科目の授業回数の3分の2以上の出席を行った者に対し、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

また、2019年度入学生より導入した単位制の学科については、シラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。

○ディプロマポリシー

本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。

1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。
2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。
3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。
4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。

○進級認定

進級は、以下の各号すべてに該当する者で、校長が認めた者とする。(2019年度入学生より導入している単位制の学科については除く)

- 1 学則に定める当該学年所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者
- 2 学年の出席率が90%以上である者

○卒業認定

卒業は、以下のすべてに該当する者で、校長が認めた者としている。

- 1 学則に定める当該学科所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者
- 2 卒業基準検定を取得している者
- 3 学年の出席率が90%以上である者

また、2019年度入学生より導入している単位制の学科については、卒業要件を以下のように定めている。

学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者

- 1年課程 30単位
- 2年課程 62単位
- 3年課程 90単位
- 4年課程 124単位

進級及び卒業の認定については、担任が進級・卒業要件の確認を行い、進級・卒業判定会議において校長が判定する。進級・卒業要件の全てを満たさない者については進級・卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。

学修支援等

(概要)

○クラス担任制

各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。

○定期的な個別面談の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む)	その他
7人 (100%)	1人 (14.3%)	6人 (85.7%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 営業職・販売職・営業事務等			
(就職指導内容) 面接指導、履歴書作成指導、業界セミナー開催、企業研究			
(主な学修成果(資格・検定等)) リテールマーケティング(販売士)検定2級、サービス接客検定2級、MOS Word MOS PowerPoint			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
24人	0人	0%
(中途退学の主な理由) なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任面談、三者面談、進路相談、保護者への状況報告、科目別補講		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務専門課程	経理専攻科 単位制					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	30 単位時間/単位	72 単位時間/ 単位	10 単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位
			82 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20人	1人	0人	1人	1人	2人		

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書(シラバス)は以下のとおり作成及び公表している。

○教育課程（カリキュラム）の編成

前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される株式会社 Flourish、一般社団法人日本経営協会等からなる教育課程編成委員会において、教育課程（カリキュラム）について意見を聴取する。

その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。

○授業計画書（シラバス）の策定

カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書（シラバス）を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。

○授業方法及び内容

授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく。

成績評価の基準・方法

(概要)

成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。

○授業科目に対する成績評価

定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。

評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。

特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする。

○履修認定について

各授業科目のシラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

卒業・進級の認定基準

(概要)

教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。

○ディプロマポリシー

本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。

1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。
2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を

<p>持って知識・技術を社会に役立てる能力。</p> <p>3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。</p> <p>4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。</p> <p>○卒業認定</p> <p>卒業要件は、学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者とする。</p> <p>1年課程 30 単位</p> <p>2年課程 62 単位</p> <p>3年課程 90 単位</p> <p>4年課程 124 単位</p> <p>卒業の認定については、担任が卒業要件の確認を行い、卒業判定会議において校長が判定する。卒業要件の全てを満たさない者については卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。</p>
--

学修支援等
<p>(概要)</p> <p>○クラス担任制</p> <p>各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。</p> <p>○定期的な個別面談の実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む)	その他
0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 実績なし			
(就職指導内容) 実績なし			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 実績なし			
(備考) (任意記載事項) 新設学科のため実績なし			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
実績なし	実績なし	0%
(中途退学の主な理由) なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) なし		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	税理士専攻科		○		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3,880 単位時間/単位	696 単位時間/ 単位	244 単位時間/ 単位間			
			940 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		3人	0人	1人	1人	2人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要) 授業計画書（シラバス）は以下のとおり作成及び公表している。</p> <p>○教育課程（カリキュラム）の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される看公税理士法人黒岩公認会計士事務所、一般社団法人日本経営協会等からなる教育課程編成委員会において、教育課程（カリキュラム）について意見を聴取する。 その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。</p> <p>○授業計画書（シラバス）の策定 カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書（シラバス）を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。</p> <p>○授業方法及び内容 授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく。</p>

成績評価の基準・方法

(概要)

成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。

○授業科目に対する成績評価

定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。

評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。

特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする。

○履修認定について

各授業科目の授業回数の3分の2以上の出席を行った者に対し、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

卒業・進級の認定基準

(概要)

教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。

○ディプロマポリシー

本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。

1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。
2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。
3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。
4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。

○進級認定

進級は、以下の各号すべてに該当する者で、校長が認めた者とする。

- 1 学則に定める当該学年所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者
- 2 学年の出席率が90%以上である者

○卒業認定

卒業は、以下のすべてに該当する者で、校長が認めた者としている。

- 1 学則に定める当該学科所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者
- 2 卒業基準検定を取得している者
- 3 学年の出席率が90%以上である者

進級及び卒業の認定については、担任が進級・卒業要件の確認を行い、進級・卒業判定会議において校長が判定する。進級・卒業要件の全てを満たさない者については進級・卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。

学修支援等

(概要)
 ○クラス担任制
 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、学修支援、進路支援等を個別で行っている。
 ○定期的な個別面談の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（新設学科のため実績なし）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む)	その他
3人 (100%)	1人 (33.3%)	2人 (66.7%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 税理士補助・経理事務			
(就職指導内容) 面接指導、履歴書作成指導、業界セミナー開催、企業研究			
(主な学修成果(資格・検定等)) 税理士科目 簿記論、税理士科目 財務諸表論			

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
6人	0人	0%

(中途退学の主な理由)
なし

(中退防止・中退者支援のための取組)
担任面談、三者面談、進路相談、保護者への状況報告、科目別補講

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
情報工学科 情報システム専攻科 情報システム科 電子システム工学科 ネットワーク・セキュリティ科 ゲームクリエイタ科 CGクリエイタ科 漫画・アニメ科 Webクリエイタ科	70,000 円	610,000 円	520,000 円	施設・設備費、維持費、 教科書・教材費、 検定費、行事費
情報ビジネス科 ビジネスエキスパート科 経営ビジネス科 経理科 経理専攻科 税理士専攻科	70,000 円	560,000 円	500,000 円	施設設備費 維持費 教科書・教材費 検定費・行事費
ゲームクリエイタ専攻科	70,000 円	610,000 円	530,000 円	施設設備費 維持費 教科書・教材費 検定費・行事費
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/abcc/2019/self-assessment.pdf
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)
○基本方針 実践的な職業教育の質を確保するため、自己評価結果の客観性・透明性を高めるとともに、設置学科の関連業界、卒業生、保護者など学校と密接に関係する者の理解促進と継続した連携協力体制の確保により、学校運営等の改善を図るため、外部委員による学校関係者評価を実施し、結果を公表する。
○評価項目 1 教育理念 (理念、目的、育成人材像) 2 学校運営 (運営方針、事業計画、運営組織、人事・給与制度、意思決定システム) 3 教育活動 (教育課程の編成・実施、目標設定、教育方法・評価、成績評価・単位認定、教育体制 教員組織、能力開発) 4 学修成果 (就職率、資格の取得率、退学率、キャリア形成) 5 学生支援 (修学支援、進路支援、学生相談、健康管理、経済支援、学生生活、保護者との連携、卒業生・社会人) 6 教育環境 (施設・設備、学外学習、インターンシップ、安全管理) 7 学生募集 (受け入れ方針、募集活動、入学選考、学生納付金) 8 財務 (財政的基盤、予算計画、監査、財務情報の公開) 9 法令遵守 (関係法令・設置基準の遵守、個人情報保護) 10 内部質保証 (学校評価、教育情報の公開) 11 社会貢献・地域貢献 (社会貢献・地域貢献、ボランティア活動) 12 国際交流 (留学生受け入れ、相談体制、海外留学プログラム)
○評価委員の構成 保護者・卒業生・地域住民・企業関係者・高等学校関係者・教育に関する有識者で構成する。
○評価結果の活用方法 6月に開催される学校関係者評価委員会において、自己評価結果及び改善計画について説明した上で、委員からの意見・助言を求めている。 7月以降、委員からの意見について、重点項目、評価項目毎に整理し、教育活動等へ具体的な活用について、校長代行を責任者として方策を策定し、次期重点目標設定、評価の改善活動に反映する。

学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
情報工学科在校生 保護者	令和元年4月1日～ 令和2年3月31日	保護者
平成6年度情報経理科卒業生	令和元年4月1日～ 令和2年3月31日	卒業生
自治会長	令和元年4月1日～ 令和2年3月31日	地域住民
久留米市外三市町高等学校組合立 三井中央高等学校 学校長	令和元年4月1日～ 令和2年3月31日	高等学校関係者
社団法人福岡県情報サービス産業協会 株式会社 サンレイズ	令和元年4月1日～ 令和2年3月31日	企業関係者
Training Center Japan	令和元年4月1日～ 令和2年3月31日	企業関係者
NPO法人 九州組込みソフトウェア コンソーシアム	令和元年4月1日～ 令和2年3月31日	企業関係者
小林憲一税理士事務所	令和元年4月1日～ 令和2年3月31日	企業関係者
リコージャパン株式会社	令和元年4月1日～ 令和2年3月31日	企業関係者
株式会社アルファクス・フード・システム	令和元年4月1日～ 令和2年3月31日	企業関係者
福岡市経済観光文化局	令和元年4月1日～ 令和2年3月31日	企業関係者
公益財団法人 画像情報教育振興協会	令和元年4月1日～ 令和2年3月31日	企業関係者
株式会社マトリックス	令和元年4月1日～ 令和2年3月31日	企業関係者
株式会社ヴァイス	令和元年4月1日～ 令和2年3月31日	企業関係者
株式会社 FOREST Hunting One	令和元年4月1日～ 令和2年3月31日	企業関係者
株式会社ディーゼロ	令和元年4月1日～ 令和2年3月31日	企業関係者
株式会社プロジェクトスタジオQ	令和元年4月1日～ 令和2年3月31日	企業関係者
株式会社 studio A-CAT	令和元年4月1日～ 令和2年3月31日	企業関係者
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/abcc/2018/hyoka.pdf		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.asojuku.ac.jp/abcc/
--